

ユーロ圏金融政策（2025年9月）

市場予想通り2会合連続で政策金利を据え置き

2025年9月12日

インフレ率の安定と不確実性の後退で利下げ局面は一巡

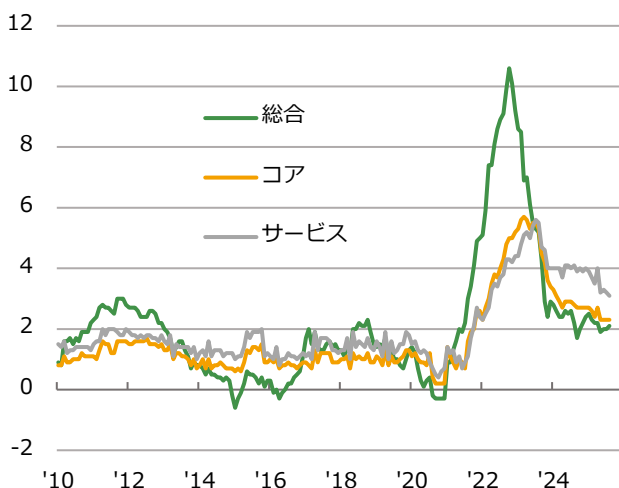
ECB（欧州中央銀行）は9月10・11日（現地）の理事会で、現在の主たる政策金利である中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を超えて預け入れる資金の金利）を全会一致で市場予想通り2%に据え置きました。昨年6月に利下げを開始し、9月以降は7会合連続で利下げを実施した後、2会合連続での据え置きです。

最近3カ月のインフレ率が順に2.0%、2.0%、2.1%と安定しているなか、ラガルド総裁は記者会見で「インフレ鈍化の過程は終わった」と明言し、利下げ局面の一巡を示唆しました。「我々は引き続き良い位置にある」との従来の表現を繰り返しつつ、経済成長に係るリスクは「よりバランスが取れている」とし、これまでの「下向き」から判断を改めた点が特筆されます。最大の要因は米国との貿易交渉の合意に伴う不確実性の後退です。四半期に一度の経済見通しでは、実質GDP成長率は2025年から2027年まで順に1.2%、1.0%、1.3%、インフレ率は2.1%、1.7%、1.9%との見通しが示されました。中期的に潜在成長率並みの成長に回帰し、2%のインフレ目標へ収れんするとのシナリオは不変です。インフレ率が2%をやや下回るのはユーロ高と労働コストの低下が原因であるとして、ラガルド総裁は問題視していません。また、フランスへの個別の言及は控えましたが、金融市場は円滑に機能しているとの判断も示しました。

中銀預金金利はコロナ禍後のピークの4%から、中立と目される2%へ引き下げられています。ECBの唯一の責務である物価安定への道筋が見通せる状況で、当面の金融政策は様子見姿勢が続くと想定します。

ユーロ圏の消費者物価指数

(前年同月比、%) (2010年1月～2025年8月)



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
(出所) 欧州統計局

ユーロ圏の金利と為替

(%) (2020年1月初～2025年9月11日) (米ドル/ユーロ)



※中銀預金金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management